

1. 日時 : 2月3日(金)16:00-17:00
2. 出席者数 : 92名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 石油製品市況について、10-12月の状況はどうだったのか。また1-3月についてどのような前提で考えているのか。

A. 10-12月の市況は原油価格の上昇もあり、厳しい状況であった。ただ、1月の市況は回復しており、1-3月の前提もそれに沿った水準としている。

Q. 仙台製油所の状況を教えてほしい。

A. 1/14より順次装置の試運転を開始しているが、約1年も停止していたところからの復旧に向けた一つのステップであり、まだ生産再開といえる段階ではない。ただ、これが順調に行けば本格稼働が可能となる体制への復旧が2月中にも実現できる可能性が出てきている。

Q. 仙台製油所が本格稼働を開始した場合の収支への影響は。

A. 仙台製油所は日本でも有数の分解能力を有しており、本格的に稼働を再開すれば、現在行っている西日本から北日本への石油製品の転送や、生産品に比べて割高な外部購入を減らすことが出来るため、良い影響があろう。

Q. 石油化学品市況が足元回復してきているとのことだったが先の見方は。

A. 製品によってばらつきがあるが、主力のパラキシレンについては最終製品であるポリエステルの需要は堅調であり、市況は今後も底堅く推移しよう。

Q. パプアニューギニアで建設中のLNGプラントの近くで地滑りがあったようだが、この影響は。

A. 1月24日に発生した地滑りにより、一旦LNGプロジェクト関連施設の建設工事は中断したが、オペレーターであるエクソンモービルはパプアニューギニア政府と協議しながら被害地域の復旧をサポートしつつ建設工事を再開した。プロジェクトへの影響は確認中。

Q. 電材の足元の状況について教えてほしい。

A. 11月発表の予想と比較して各製品で販売が下ブレしている。最終用途である家電、IT関連製品の不振や、これに伴う在庫調整が大きく効いている。電子部品関連の在庫調整はかなり進んでいるものの市況が本格的に回復するのは今年後半からとなろう。

Q. 中期経営計画の目標のほかに、2015年のビジョンとして経常利益5,000億円の目標を掲げていたが、その後の状況の変化によって変更はあるか。

A. 足元では第一次中期経営計画の達成に注力する一方、第2次中期経営計画の策定を進めている

ところだ。第一次中期経営計画については足元の原油価格、銅価の状況やシナジーの積み上げ状況から十分に達成できると考えている。来年からカセロネス鉱山の生産が開始され、足元程度の銅価が継続していれば 400 億円以上経常利益に貢献しよう。こういったものが積み上げられていけば、経常利益 5,000 億円も視野に入ってくる。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。